



なかた ごうのすけ
中田 豪之助 議員

大人は自分の仕事を頑張る。 子供はその姿を学び、大人になって 地域に貢献する。この循環が大切。

町長 多様な社会の中で様々なことを学んで将来のリーダーを育てていくことが非常に大切

商工業政策について

質問

商

店街、事業所の廃業が止まりません。コロナ禍という経済停滞もありますが、それは想定内のことです。国からの地方創生臨時交付金などにより、財源はありました。この廃業にどのような対策を取りましたか。それにより効果はありましたか。

町長 「下川町中小企業振興基本条例」を道内に先駆けて制定し、商工会などとの連携、中小企業などの経営基盤の強化や起業などの支援、相談を行い、国や道の支援策を紹介しています。また、国の地方創生臨時交付金を活用し対策を講じています。これらにより、近年では毎年1件以上の起業・創業があります。

再質問

起業・創業が1件以上というのは少ないと思います。人口も少なく、商圈も小さいこの下川町では本当に厳しい条件です。販売・ビジネスを始めても、ずっと継続させていくのは非常に大変です。過激な言

い方もかもしれませんが、1件できたからといって何か月、何年もつか、存続できるのか。そういう中で、新しい事業所の起業・創業をもっと町として下支えするような施策をどう考えていますか。

町長 地域おこし協力隊など、これまで40人近くの方々が、最大3年間活動を展開し、起業された方々が何人かいます。そういう誘発を町としては今後もししていきたい、町内に新たな事業展開が広がるような進め方を今後も行いたいと思います。

林業政策について

質問

林

業・林産業の人材育成、確保、経営基盤の強化は進んでいますか。

町長 北海道旭川農業高校や北海道北の森づくり専門学院の実習の受け入れを通じた人材の育成や確保につなげ、人材確保の仕組みづくりのため、基幹産業人的資本事業に取り組み、循環型森林経営による安定的な森林整備や原木の供給を通

し、町内事業体で構成する林業・林産業研究会での情報提供、林業振興基本条例に基づき各種支援策などにより経営基盤の強化に寄与しています。

再質問

下川町の教育行政執行方針には、こども園から高校まで森林教育を行っている、子供の頃から森に親しみ、自然環境、歴史、伝統文化、地域産業など、地域の大人たちから学ぶことを通じた教育を進めるとあります。大人が自分の本業を一生懸命頑張る、まちづくりも頑張る。子供たちは職場体験やインターンシップ、そして林業実習などを通じて、大人の頑張っている真面目な姿を学ぶ。その子供たちがまた大人になって地域に貢献する。そして下川に残るか残らないかは、その時の子供たちの判断だと思えます。

町長 多様な社会の中で様々な事を学びながら、社会の担い手として育んでいき、社会の中で自分がどう立ち位置なのか、社会人になった時にどのような収入を得ることができると

ながっていくと考えています。木材、薪、また建物の部材として供給や、水源涵養、土砂流出の防止など、森林の機能は様々な事が考えられます。それらを子供の時から学んで、将来リーダーとして指導していただけるような子供たちを下川から育んでいくことが非常に大事なことだと思います。

人材育成戦略について

質問

本年6月定例会議で、「自らチームを率いて課題解決、意思疎通を図ってはいかがか」との私の質問に対し町長は「大変必要な事で努めてまいります」との答弁がありました。この半年間で何か実践しましたか。

町長 プロジェクトチームのように固定化はしていませんが、施策としてチームを作りながら議論をしています。そこにまだ私とコミユニケーションが取れてないところもあるので、今後も様々な機会に設けていきたいと思えます。